



肺がん

長引く咳・痰・胸痛は 早めの受診を

肺がんは、肺や気管支から

発生する悪性度の高いがんで、日本においては、がん死亡者の最も多い病気であり、年間6万人以上の人が命を落としています。タバコと関連の強い病気であり、タバコを吸う人が肺がんになる危険性は、吸わない人の3〜8倍程度といわれています。ただし、特に女性ではタバコを吸わない人の肺がんも少なくないので、タバコを吸ったことがないからといって安心はできません。

肺がんのみにみられる初期症状は特にありませんが、長引く咳、痰(血痰)、胸痛などには注意が必要です。風邪などと自己判断せずに、医療機関を受診するようにしましょう。また、比較的早期の肺がんは無症状でレントゲンやCTなどの検査により発見されることが多いので、検診やドックなどの機会をできるだけ活用すべ

きといえます。

肺がんは小細胞がんとそれ以外(腺がんや扁平上皮がん)に大別されます。小細胞がんの場合は診断される時点ですでにリンパ節などに広がっていることが多いので手術困難で、抗がん剤や放射線による治療が主体となります。一方、腺がんや扁平上皮がんでは早期の場合には手術が第一に選ぶべき治療法です。手術できない比較的行した肺がんでは抗がん剤や放射線によって治療することになります。最近では副作用の少ない薬もありますので、専門的な医療機関を受診してよく相談することが大切です。

吹田市医師会 長 澄人

